

第 357 回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 令和 2 年 1 月 14 日 (火) 16:00~18:00
2. 場 所 静岡エフエム放送本社会議室
3. 番組聴取合評 [番組名] Ritomo 電波上の二点間
[放送日時] 令和元年 11 月 9 日(土)他 25:30~26:00
[出演者] Ritomo
4. 出席者 [委員] 委員長 木宮敬信 副委員長 角田哲康 委員 小野晃司
委員 山本りさ 委員 服部乃利子 委員 加藤裕治
- [会社] 代表取締役社長 今井学
編成制作本部長兼編成制作部長 久保田克敏
編成制作部制作担当部長 寺田和史

5. 事務局報告

- 新年挨拶及び今年の 6 方針説明
- 静岡サッカー100周年共同番組実施の件

6. 番組審議

- [対象番組] Ritomo 電波上の二点間
[放送日時] 令和元年 11 月 9 日(土)他 25:30~26:00
[出演者] Ritomo
[番組内容] 「1 対 不特定多数」に敢えて逆らい「1 対 1 の交信を」
目指す。貴方と私の二点間を繋ぐ電波に浮かぶ物とは？

[聴取・合評での主な意見]

小野委員 初めて聴いたが、声質が良く少年性も感じる。語り部的な可能性がある深夜番組として聴き易い。歌詞のコーナーはかなり深く入り込むので、リスナーがどこまでついていけるのか気になる。もう少し分かりやすく説明すると公共性が出てくると思う。全体的には真剣の度合いは感じ、素晴らしい出来だ。

加藤委員 年齢の割に落ち着いている印象。深夜番組だけあってリスナーがかなりコア。2 者の共同体ができている感覚。若者が集う実験の場としても面白い。彼女の感性が良く出た番組だ。

- 服部委員 週替わりで企画している2コーナーの違いがよく分からない。リスナーとの対話をしている印象も感じない。アーティスト番組として、ファンに支えられながら育っていけば良い。
- 山本委員 聴き易い素敵な声。BGMが高く、内容が伝わってこない箇所があった。リスナーからのクレームメールに対し、寄り添い共感しつつ、自らの意見も伝える真摯な姿勢に好印象。
- 角田副委員長 ライブで良さが伝わるアーティストだと感じる。現在は、「感性」と「経験」の絶妙な年頃ならではの良さ。経験の乏しさを感性で補っている。「危うさの魅力」が今後どう変わっていくのか？持続性が心配な所。
- 木宮委員長 概ね、声質や歌への評価が高い。「1対多」ではなく「1対1」という非常に実験的なコンセプトの番組だが、そのコンセプトを実現させるとリスナーが限定される、というジレンマがある。現状「売れていない」からこそできる番組だろう。気になるのは非常な告知の多さ。頭に入っていないので、直近の1～2に絞ってはどうか。
- 会社サイド 前回(第356回では新規コーナーの企画性を評価頂いた一方、人選と方向性についてご指摘頂きました。今後の番組作りに反映させ、改善するようにいたします。

次回開催日 令和2年2月4日(火) 11:00～12:30を予定

以上

番組審議会委員長

木宮敬信